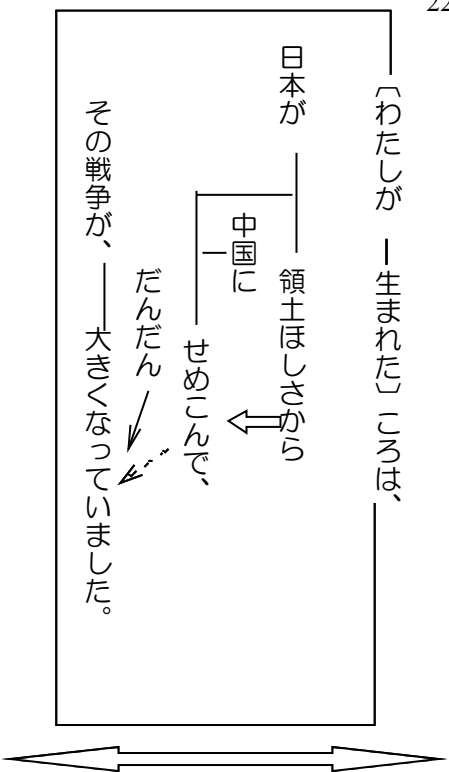


- 22 わたしが生まれたころは、日本が領土ほしさから中国にせめこんで、その戦争が、だんだん大きくなっていました。
- 23 ご近所でも、八百屋のおじさんや、とこ屋の兄さんや、ゆう便屋さんなどが、さっそく兵隊にとられたんですって。
- 24 そして、間もなく父も戦争に連れていかれちゃいました。



から(格助詞)

- ① 間接的な対象をあらわす。
- ② 動作や状態のかかわる場所をあらわす。
- ③ 動作や状態の始まる時間・場所をあらわす。
- ④ 原因をあらわす。

＊ 本文の場合は④ 「日本語の文法 p42～44」

せめこむ 【攻め込む】 (動マ五 [四])  
攻めて敵地に入り込む。攻め入る。  
「敵陣」ー・む

～している(既出) 現在進行形があらわす意味  
「～している」は、一般的に現在進行形だといわれる。ただ、現在進行形というと、英語のそれを思い浮かべ、動きが進行しているところだけがちだが、実際には二つの意味がある。それは、動きを表す動詞と変化をあらわす動詞によってちがっている。

・ 犬が走っている。  
このばあいは、まさに現在、犬が走っているというところ、走るという動きが続いていることをあらわす。

・ 洗濯物がかわいている。  
このばあいは、かわくという動きが続いているわけではない。ぬれていた洗濯物が「かわいた」という変化の結果が状態として続いているということだ。

これが物語の中で使われると、出来事の背景をあらわすことが多くなる。本文のばあいは、「わたしが生まれたころ」には、すでに中国との戦争が始まっていて、「大きくなっていた」のだ。つまり、戦争が拡大している最中に、わたしは生まれたということになる。

このように、物語の中では、「～している」は、ある出来事の背景として同時に存在していることが多くある。それがとらえられると、ものがたりは、立体的に読むことができる。そういう点を考慮すれば、文図の書き表し方も工夫することが出来る。

● 書かれているなかみ(映像・感情・説明)

物語の歴史的背景があらわされる。このことで、時代的に1930～40年代であることがわかる。若者たちが、どどん戦地におくりこまれていた時代だ。「兵隊にとられる」「戦争に連れていかれちゃいました」という書き方が、悲しみや戦争に否定的な気持ちをあらわしている。

- T 文が三つあるよ。わかるかな？
- C わたしが 生まれた
- C 日本が せめこんで
- C 戦争が 大きくなっていました。
- T そうだね。まず、これは、いつのころかというところ、わたしが生まれたころ。
- T わたしが、生まれたばかりのころなんだ。お父さんが、わたしのために風を作ってくれた。
- C お父さんも、大喜びだった。
- T うん、そんなころだ。つまり、わたしの家族にとっては、とても・・・、幸せなころだったんだ。
- そんなころ、どんなことがあったかというところ、
- C 戦争をしていた。
- T 書いてある通りに読んでみよう。
- C 日本が攻め込んだ。
- C 中国に攻め込んだ。
- T 「せめこむ」と書いてあるね。「せめる」ではなく。どうちがう？
- C どんどん、中に入っているような感じがする。
- T うん、「～こむ」というと、中に入るという意味がつけ加わるんだ。「このびんが」とか「のめりこむ」とか。この「せめこむ」というのは、敵の中にはいることなんだ。
- この場合、敵とは？
- C 中国
- T お隣の国、中国だ。じゃあ、けんかしていたから、攻め込んだのかというところ？
- C 領土ほしさから。
- T 理由は、領土ほしきなんだ。領土がほしいというのはどういうこと？
- C 中国の土地がほしい。
- T 日本は、小さな島の国だからね。社会でも勉強したように、日本は、外国から、資源のほとんどを輸入している。でも、お隣の中国は広いから、そういう資源もたくさんあるんだ。ただ、土地がほしかったというだけではなくて、そういう資源がほしかったんだよ。そこで、中国に攻めこんだ。くわしいことは、6年生の社会で勉強するからね。
- そして、攻めこんで、どうなった？

だんだん 【段段】(副)

(1) 「じ」「を」を伴っても用いる(物事が順を辿って変化することを順を追って進びなす)。

「新しい仕事にもー(と)・(に)慣れた」「ー(と)・(に)明るくなる」

(2) 次々に続くさま。あれこれ。かさねがさね。

「なう星には言訳ー有浄瑠璃・堀川波鼓(中)「

C その戦争がだんだん大きくなっていました。

T だんだんっていつと？

C 急ではなくて、ゆっくりと。

T そうだね。ところで、戦争が大きくなるというのは、どういことだろう？

C 戦争している場所が広がっている。

C いろんなところで戦争をしている。

T 戦争が大きくなるということは、戦っているところが広がっているんだ。

さて、ところで、「戦争が大きくなりました」ではなくて、

「戦争が大きくなりました」と書いてあるよ。わたしが生まれたころは、戦争が大きくなっていったんだ。どういこと？

C わたしが生まれる前から、戦争が大きくなっていった。

C わたしが生まれる前に戦争が始まっていて、だんだん大きくなっていった。

T そして、今も、これからも？

C だんだん、大きくなっていく。

T 戦争が、終わりになるんじゃないかって、逆に、だんだん大きくなっていくんだ。そんな時代に、わたしが生まれたんだね。ところで、戦争は、だれがやっているの？

C 日本と中国

C 兵隊

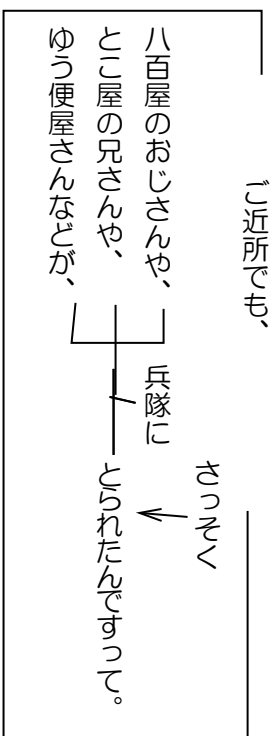
T うん、日本と中国が戦争しているといっても、戦っているのは、兵隊だ。つまり、人なんだ。戦争がだんだん大きくなるっていうことは、この兵隊たちはどうなんだろう？

C たくさん死んだらしている。

C 兵隊が足らなくなっている。

T 戦争が大きくなるということは、死ぬ人も多くなっているといことなんだ。もちろん、これは殺し合いだから、殺したり、殺されたりが多くなっている。そういうことなんだ。

兵隊は、普通、軍隊に入っている人、今なら、自衛隊の人が行くんだけど、戦争が大きくなるとうなるか。次の文を読んでみよう。



も (とりたつ)

文の部分のあらわすものごとを強く強調して、他の同類のものごととあわせてついでに「は」

「日本語の文法 P27」

や (名詞の並立形)

文中で同じ資格を持つ単語や単語の集まりをならべる

→ 「と・や・か・なり・だの・とか・や・こ」

じゆん

\*この単語には、さまざまな語彙的な意味がある。辞書によつては、次のような意味が掲載されている。本文にぴったりだ。(3) 権力によつて強制的に集める。多く受け身の形で用いる。「愚子を兵隊に〜られる」「徴用〜られる」

受け身の形があらわすもの

受け身の文では、動詞の受け手が主語としてあらわれる。同じ表現性がある。動きの中心ではない、受け手を主語にする。受け手の側に心を寄せようになる。例「このお兄さん、受け手(受け)」「連れていられる」「戦争に連れていかれる」の表現性の違いも注目すべき点だ。また、この動きの受け手はだれなのかを明らかにするだけでも、能動文に置きかえてみる必要がある。

受け身の文は、次のように整理できる。

ア、直接対象の受け身

・ 第一走者が第二走者にバトン<sup>わた</sup>をわたした。(を格の名詞)

イ、間接対象の受け身

・ 第一走者が第二走者にバトン<sup>を</sup>をわたした。

ウ、もちぬしの受け身

・ 第二走者が第一走者からバトン<sup>を</sup>をわたされた。

エ、受け身の受け手

・ 太郎が次郎のかたをたいた。

・ 次郎が太郎のかたをたいた。

エ、めいわくのうけみ(第三者の受け身)

・ きのう、雨がふった。

・ きのう、雨にふられた。

エの受け身では、能動の文にはない第三者がはた迷惑をこうもめることをあらわしています。この第三者をさしめず主語がはかれることが多い。

「日本語の文法 P72」

T だれのこと?

C 八百屋のおじさんや床屋のお兄さんや、郵便屋さんなど

T この人たちは、どこの人?

C 近所。

T みんな、知っている人なんだね。

C その人などが、と書いてあるから?

C ほかの人もいる。

T そうだね。この三人だけじゃないんだ。そして、この人たち

ちがどうだったかということ?

C 兵隊にとられた

T 兵隊にとられる、ってわかる?

C 兵隊になって、戦争に行った。

T そうだね。近所の人が、兵隊になって、戦争をしにいったんだ。

C じゃあ、この人たちは、日本のために頑張るぞって、自分

から行ったんだろうか?

C ちがう。

C 兵隊にとられた。

T 兵隊にとられた、という書き方が問題だ。

C 「とられる」というと、もとの言い方があまる。

例 ほくは弟におかしをとられた。

C 「この文を、「弟が・・・」の文におおすよ。

C 弟が、ほくのおかしをとった。

T そうなるね。じつじつのを、さらされる方の立場から書いて

あるので、「受け身の文」として、「わかかたもつてみるよ。

なかみは同じだけれど、「ほくは」が主語だよ。

C ほくのじゆん

C ほくが中心。

T 主語は、話題にしたじゆんをさしますのだから、「ほくが

とられた」というのは、ほくのじゆんがいらした、「弟がと

た」というと、弟のじゆんがいらした。つまり、この文で

は、?

C 八百屋のおじさんや床屋のお兄さんや、郵便屋さんなどの

じゆんがいらした。

T その人たちの立場に立っているんだ。さつ、「とられた」

と書いてあるんだから、例文のように、「とった」人いるは

ずだ。だれだろう?

C っ?っ?

C 国

T うん。難しいねえ。だれかが、兵隊にとった、というわけ

じゃないんだ。「兵隊にとられる」というのは、国(国家)

が、強制的に(むりやり)兵隊にして、集めてしまうことな

んだ。「戦争に行きたくない」といって、断ることはできな

かった。断ったりしたら、警察につかまって、「非国民」と

いって、牢屋に入れられたんだ。そういう時代だ。で、兵隊

にとられるときというのは、急に手紙がきてね、これが赤い

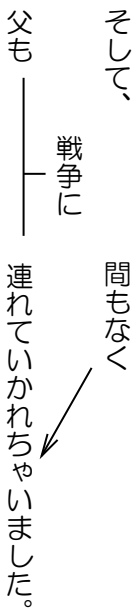
紙だったから、「赤紙」と呼ぶんだけど、ある日突然届けら

れて、何月何日に〜に来い、と、命令されるんだよ。戦争に

なると、そんなことになってしまうんだよ。

たつとく 0【早速】(副)  
すぐさま。まへ。  
「―参上致します」「―報告してもらいたい」  
(名・形動)  
すみやかな・こと(さま)。  
「―の御返事ありがとうございます」

- T さて、一つ、残っている単語があるぞ。  
C さっそく。  
T ということは？  
C すぐに。  
C 早かった。  
T 何があって、さっそくなんだろう。前の文で、勉強したよね。  
C 戦争が大きくなって。  
C 兵隊が足りなくなっただんだ。  
T 軍隊に入っていない近所の人まで兵隊にとられるほど、兵隊が足りなくなっていたんだ。それくらい、戦争は大きくなっていったということだね。つまり、それくらいたくさん兵隊が  
C 死んだ。  
C 殺された。  
T そうなことだ。しかも、「近所でも」って、書いてあるんだから。  
C 近所ではない、よそでも。  
C どこでも。  
T 近所が特別なわけじゃなく、いろんなところに住んでいる男の人が兵隊にとられていったんだ。  
そして、次の文だ。



つれる 【連れる】(動ラ下二)「文ラ下二」つゝる

(他動詞)

同行者として従える。伴う。「犬を―れて散歩する」

(自動詞)

(1)ある物事の変化にともなうて、うつりゆく。

「歌は世に―れ、世は歌に―れ」

↓つれて

(2)列を作る。連なる。

「雁―れて渡る源氏(須磨)」

(3)いっしょに行く。同行する。連れ立つ。

「夕暮のしめやかなるに、藤待従と―れてありへ」源氏(竹河)

受け身の文(前出) つて(まじ) (既出)

本文では、「連れていかれちゃいました」となっている。もとの形にすれば、「連れていかれてしまいました」だ。この部分は、複雑に形が合わさっている。連れる→連れていく→連れていかれる→連れていかれてしまった。この「つ」が検討できれば、なかみはなつてはつきすんだ。

つて(まじ) つて(まじ)

とおのつて(まじ)をつて(まじ)

①ある動作をいつからいつまでをあらわす。途中で動作するのとせある。

・ちよつと、うちへつて(まじ)。

②ある動作や状態をしながら行つたことをあらわす。

・母は、わたしを病院までおんづつて(まじ)だ。

③つて(まじ)入遠のく移動やはたらきかけをあらわす。

・ネ」が裏口から入つて(まじ)。

動作や変化のありかたをあらわす

①変化の過程が進むことをあらわす

・秋が深まつて(まじ)。

②消滅の過程が進み、終わることをあらわす。

・枯れ葉のまじつて(まじ)。

③その時点から、動きがいついつまでをあらわす。

・きみは、転校しても、ちよつとつて(まじ)。

「日本語の文法 P100」

\*本文の、「連れていかへ」の場、「つて(まじ)」動詞が、一般的に「連れていかへ」「連れてくる」という形で使われるので、強い意味はないかもしれない。他動詞の①の意味、あるいは自動詞の③の意味だろうけど。

- T この文は？
- C 父のこと。
- C 父も連れていかれた。
- C 戦争に連れていかれた。
- T そうなんだ。近所の人のことだけではなかった。それも、まもなく、と書いてあるから？
- C 八百屋のおじさんや床屋のお兄さんや、郵便屋さんなどが兵隊にとられて、すべ。
- T そうだね。間の時間がなかったんだ。
- T ついで、ここでも、前の文と同じように、「連れていかれる」と、受け身になっている。じゃあ、「連れていった」だれかがいたんだ。それは？
- C 国
- T そうだろうね。でも、「連れていかへ」というと、だれかがいっしょにいるときに使うものだ。
- ・ほくは、犬を連れていった。
- ・わたしは、買い物に連れていかれた。
- みだいに。じゃあ、国がいっしょに行ったの？
- C ……？
- T そんなことないよね。ここには、どうも気持ちがこもっている。
- A 父も、兵隊にとられた。
- I 父も、戦争に連れていかれた。
- どう、なんだか違うかい？
- C どうちよつと、むりやるといふ感じがする。
- C つれていかれる、というところ、いやなの、むりやられか「引」はられていかへという感じがする。
- T どうちよつと、自分から行くことしたわけではない。でも、気持ちがちよつとちがうみたい。だって、わたしの家は、今、ちよつと…？
- C わたしが生まれて、すぐ幸せだった。
- C お父さんは、ずっと家にいたかった。
- T 一番、いいところだったんだよね。それが、むりやり引はられていったような感じなんだ。お父さんも、よほど行きたくはなかっただろう。実際には、ほかの人と同じで、家に、赤紙がきたんだ。
- わて、わりには、「父も、戦争に連れていかれちゃいました」となっている。「は、普通の文にすれば？」
- C つて(まじ)。
- T そうだ。今までの文でも出てきたよ。そこで、次の文を比べて考えてみよう。
- A、父も、戦争に連れていかれた。
- I、父も、戦争に連れていかれた。
- C イのほうは、行ってほしくなかったという気持ちがある。
- C いやだった。
- T そうだろうね。これは、だれの気持ち。
- C お父さん
- C お母さん

C わたし

T わたしも？

C わたしは、生まれたばかりだから、わからないうつ。

T そうだろうね。じゃあ、お父さん、お母さんの両方どい？

C ……？

T 「連れていく」と、「〜していく」になっついで。

A、ネコが家に入った。

イ、ネコが家に入ってきた。

ウ、ネコが家に入ってきた。

T どう？

C アは、ネコが入ったことだけで、イは、見ている人が家の外から見ていて、ウは、家の中から見ている。

T そうだね。イの場合は、ネコが見ている人からどうなっついで。

C 遠くへ行っている

C 遠のいている。

C ウは、近づいているんだ。

T そうなんだね。

\*実際に、先生が動いて、だれかから見つ、今の動きは「歩いていく」か「歩いていく」かを考えれば、よくわかります。

このことは、父も連れていかれたこのことは。

C お母さんから見。

C お母さんの思ひ出話だからだ。

T そうだね。お父さんももちろんいだったけど、お母さんから見るのと、自分のところから離れていったら、お母さんの離れたいという感じがしたんだ。戦争とこのものは、そういうものだ。

T ほかにわかることはありませんか？